



4月11日に中川で20分やり取りした後、釣った87cm、11kg。息子と一緒に記念撮影

年間モニターレポート[1]

埼玉県/三郷市

中川

NAKAGAWA

武田英樹 (36歳)

Hideki Takeda

釣り場の特徴

中川は埼玉と東京を流れ、車で釣り場まで乗り入れる所もあるので人気のある河川です。鯉の魚影が大変濃く、冬場でもダンゴやゴカイで鯉が釣れるので、一年中、鯉釣りが楽しめます。またソウギヨなどの大物も狙えます。

私が釣行したのは、三郷の八潮排水場のポイントです。ここは排水場の水門出口と本流の境にオイルフェンスがあり、潮の上げ下げにより移動するのでそこには竿を出せません。従って本流狙いになります。水門前は狭いので向かって左側の水深4mのポイントに竿を出します。中川は潮の干満が激しく、「ゴミ」が流れて釣りづらいますが、満潮の方が良くヒットします。

私のタックルと仕掛け

竿は1・8mのリールセット付き1980円の息子用に買ったチヨイ投げ竿です。ミチ糸6号、巨鯉ハリス10号、亀型

オモリ15号に市販の吸い込み仕掛け13号です。

エサ

私のベースエサは「巨鯉」3、「鯉パウ」1、「スーパー鯉むぎ」2の割合です。その他に場合によっては、ヘラ用の「バラケバインダー」、「赤ペラ」、「巨ペラ」を混ぜることもあります。

くわせには「くわせコーン」を使いますが、エサ取りが多い時は、吸い込みバリ18号に4〜5個付けます。

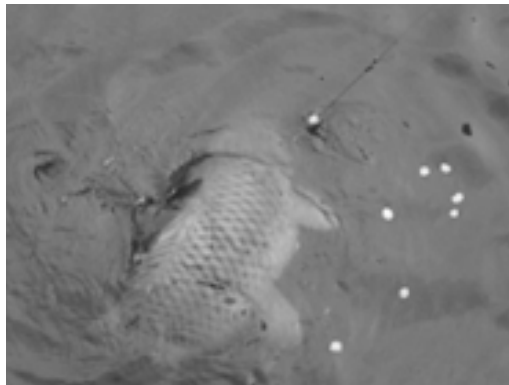
大物を狙うには、大粒のエサを使い長時間待つのが基本です。「巨鯉」が主体で「鯉パウ」、「スーパー鯉むぎ」のブレンドは大変良く、エサが残っているかどうか？心配になりません。半日置いてもアタリがあるので安心です。

ベースエサに「鯉のぼり」、「鯉師」を混ぜると、50〜60cm台のアタリが多く15分〜2時間で釣れますが、それ以上待ってもアタリがありません。このエサのブレンドは数を早く釣るには大変良いエサです。

*大物狙いのテーマは「白と大粒」
春季、中川に釣りに行った際、水面に浮いた桜の白い花びらに鯉が興味を示したのです。そこで「バラケバインダー」を入れて白いダンゴを作って試してみました。「バラケバインダー」は水中でふやけると白くなるのです。その白いダンゴを使い新利根川で80cm台を2本釣ることができました。



3月27日に中川で釣った84cm、7kgの鯉。初めての80台に感激！



水面に浮いた桜の白い花びらに鯉が反応した

昨年までは、「タニシ吸い込み」、「鯉スパイス」におろし生ニンニクを混ぜた匂いの強いエサが中心だったので、数は釣れますが80cm台を釣ることができませんでした。白いダンゴと「くわせコーン」の組み合わせで、昨年よりも確実に大物が掛かるようになりました。

秋の荒食いのシーズンは、ヘラの新製品「白ペラ」を使った白ダンゴで90cm〜メーターオーバーを狙ってみようと思います。



瀬田川の大和川の鯉

年間モニターレポート[2]

滋賀県/大津市

瀬田川

SETAGAWA

北野真史 (35歳)

Masashi Kitano

釣り場の特徴

琵琶湖より流れる瀬田川は鯉、アユ、フナ、ゲンゴロウブナなど魚種が豊富です。(私は昨年、メーター超えのピワコオオナマズを釣りました。)

盛超川の吐き出し口から上流は琵琶湖であり、水深も浅く水温も上がりやすいので、乗っ込みも早いのですが、私はあえて水深のある瀬田川を攻めます。盛超川の砂等でできた浅瀬やカケアガリは、多くの魚が集まっている好ポイントです。おそらく琵琶湖の浅瀬で産卵を終えた鯉が、水温の上昇と共に瀬田川の深場へと回遊して来るものと思われま。

私が竿を出したのは、JR東海道線より上流、瀬田川右岸のポイントで実績があります。流れのある瀬田川の鯉は、子供の頃からよく走られ、ミチ糸を切られた覚えがあります。春の産卵期には肥満化した大和鯉の重量感や真鯉(野生)のパワフルな走りに魅了されます。

瀬田川の釣期は、5月中旬頃が水量が

多く水深があるせいか最も良い気がします。昨年の5月中旬、ここでメーターオーバーが釣れており期待されますが、今年は鯉ヘルベスの影響が懸念されています。

私のタックルと仕掛け

竿は鯉竿5・2mに両軸リールを使用。ミチ糸8号、パイプオモリ30号、吸い込み4本バリのうち一本をくわせバリにします。

エサ

私のエサは、「鯉パワー」をベースに「鯉将」、「みどり」、「マッシュポテト」、「もじり」、「鯉のぼり」、「タニシ吸い込み」と「アッペンコーン」、「スーパー鯉むぎ」などを使います。

くわせは改良された「くわせコーン」を使いますが、尖帽付きなのでハリ残りが良く安心して長時間アタリを待つことができます。



JR東海道線より上流、瀬田川右岸のポイント

*産卵前後の瀬田川ブレンド

春、瀬田川の鯉は産卵前の荒食いで食欲旺盛です。しじみ、タニシを多く食しているの、私はベースの「鯉パワー」に動物性の「タニシ吸い込み」、「鯉のぼり」を多く入れます。水温が上昇する季節

節はアタリが遠くなるので、長時間ポイントに荒い粒子のエサが残り、ジャミに強い「巨鯉」をベースに使います。

ダンゴを握る時、瀬田川の流れを考慮し、大鯉が好むサツマイモが大量に入った「鯉将」で粘りを出し、さらに風味を出すために「みどり」を混ぜます。ダンゴをバラケさせるには「マッシュポテト」、「もじり」、「スーパー鯉むぎ」を使用します。

秋のベストシーズンは、「巨鯉」をベースにエサ作りをしようと考えています。「巨鯉」は発酵菌によって内容物を糖質に変化させます。その甘さと香りで鯉を寄せますが、私はさらに、ビール粒などを隠し味に使って鯉にアピールしています。

私のよつなサンデーアングラーは、いつもマルキューの鯉エサに頼っています。中でも、「大い」は集魚効果が強くよく釣れます。特に鯉の型より数釣りを楽しむ昔ながらの釣り人には人気があります。私も30年前は「大い」、「いもねり」、「さなき粉」を使っていました。